

大腿骨骨折

大腿骨骨折で手術を受けた方が、身近にありませんか。
今回は、皆さんが受傷する危険がある、大腿骨骨折について解説します。

はじめに

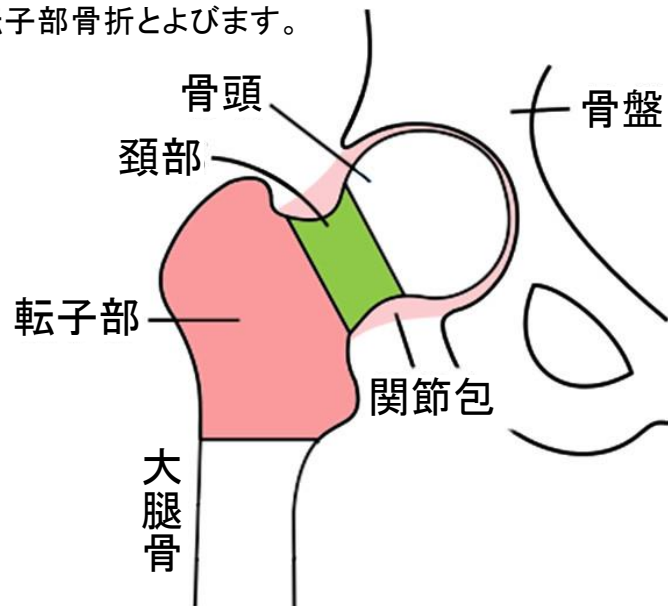
若年者では、交通事故のような大きな衝撃が加わった場合に、大腿骨骨折を起こすことがあります。頻度は非常に低いです。

しかし、高齢者は、骨粗しょう症のために、骨の強度が低下しているため、転倒のような比較的軽微な外力でも骨折を起こしてしまいます。骨粗しょう症は圧倒的に女性に多いので、大腿骨骨折は、高齢女性に好発し、男女比は1：4といわれます。

大腿骨骨折の種類

大腿骨の一番上の球形をしている部分を骨頭。そのすぐ下の細くなった部分を頸部とよびます。頸部はさらに、転子部という太くでっぱった部分につながります。

これら大腿骨頸部と大腿骨転子部の骨折のことを、それぞれ大腿骨頸部骨折、大腿骨転子部骨折とよびます。



特徴

関節は関節包という袋で覆われています。大腿骨頸部は関節包の内側にあるのに対して、大腿骨転子部は関節包の外側にあります。骨折の治癒には、外骨膜が必要ですが、これは関節包の内側には存在しないため、大腿骨頸部の骨折は、非常に癒合しにくいという特徴があります。

その上、骨頭部や大腿骨頸部は回旋動脈という細い動脈で栄養されていますが、頸部骨折を起こした時にこの動脈が損傷を受けると、骨頭が壊死して骨癒合はできなくなります。

これに対して大腿骨転子部は、骨癒合しやすい骨折です。

手術法

大腿骨骨折をおこすと、歩行ができなくなるため、日常生活動作が著しく低下します。そのため、患者さんの全身状態が手術に耐えられると予想できる場合には、大腿骨頸部骨折や大腿骨転子部骨折は手術によって治療することが必要になります。

大腿骨頸部骨折では人工骨頭置換術、大腿骨転子部骨折に対しては、骨接合術が一般的に行われます。

下肢骨折の術後のリハビリテーションは、

- ①ベッド上坐位保持訓練、②車いすへの移乗、③立位保持訓練、④平行棒内歩行訓練、⑤歩行器歩行訓練、⑥松葉杖歩行訓練、⑦T杖歩行訓練のように進めるのが普通で、この間に骨折した骨に隣接する関節を動かす訓練や筋力トレーニングを並行して行います。

予後

大腿骨頸部骨折および大腿骨転子部骨折後の死亡率は、欧米では11～35%程度と報告されていますが、日本では10%以下で欧米に比べて良好です。

手術中に患者さんが亡くなる事は極めてまれで、術後早期(入院中)の死亡例の原因としては肺炎が最も多いといわれています。

しかし、受傷前に屋外活動を一人で行うことが可能であった患者さんでも、半年から1年後に元通りに近い歩行能力を獲得できるのは、全体の50%程度といわれています。